

会 議 録

会議名	令和7年度 第1回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和7年8月1日(金) 10:00~12:00
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主催	山形市少年自然の家
出席者	出席委員 山口 雅和、長沼 政直、辻原 吉子、畑 秀生、渡辺 彰、 黒沼 末八、大嶋 民代、横倉 明、横戸 美栄、黒木 佳昭
事務局	金沢 智也 教育長、板垣 裕子 教育部長 少年自然の家 和田 裕樹 所長 金山 治行 副所長 菅野 研一 副所長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議題	令和6年度事業報告・施設利用報告 令和7年度事業計画・施設利用予定 等
資料	令和7年度 第1回山形市少年自然の家運営協議会 資料
傍聴者	0名
作成者	主幹 横山 誠

会議経過

- 1 委嘱状交付
 - 2 開会
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 委員及び事務局職員紹介
 - 5 少年自然の家の組織について
事務局より、資料を用いて説明。
 - 6 少年自然の家の概要及び運営協議会について
事務局より、資料を用いて説明。
 - 7 運営協議会会長及び副会長選出
事務局より、会長 黒木佳昭委員、副会長 横倉明委員を推薦し承認をいただいた。
 - 8 運営協議会長あいさつ
 - 9 協議
少年自然の家条例施行規則により、黒木会長を議長に選任
- (1) 令和6年度事業報告について
事務局より、資料を用いて報告。
- 委員 少年団事業で個別支援が必要な参加者が増えてきたとある。7回の研修を通じて子供たちの成長の様子や伸び等が感じられたところを教えてもらいたい。
- 事務局 昨年度は少年団員募集の際に保護者より特別支援学級在籍との相談があり、事前に面談や施設の見学を行い、安心した状態で少年団に参加してもらった。また、研修を行うごとに活動時の様子や伸びているところ、他の児童とのかかわりの様子などを保護者に情報提供を行った。

普段、特別支援学級の限られた中での学習だが、同学年でいろいろな学校の仲間との活動で人と関わることに自信をつけた様子が見られ、本人も振り返りの中でそのように述べていた。学校現場とは違う学びが少年自然の家にはあるということが感じられた。

不登校傾向にある児童が参加されたこともあったが、少年団で頑張った翌年、5年生での宿泊学習の際には班長として頑張る姿を見せてくれた。少年団での体験が子供に力を与える一助となっているのではと嬉しく感じられた。

委員 親子そば打ち道場は申込みが多くあるが、道具があれば何組までなら受入れ可能なのか。

事務局 昨年度は道具をお借りして15組としたが、キャンセルがあり13組の参加だった。

道具の数の問題もあるが、参加者への指導の対応も考えると15組が限度と考えている。

委員 雪椿祭りについて参加者が少ないようだが、開催場所などはどの様に周知されているのか。

事務局 広報やまがたや市のホームページ、地元のコミセンだよりなどでPRしている。場所は大平地区で駐車場もあるが、狭い山道のような道路を通る必要がある。

委員 以前は開催日を決めてお祭りに開催していた。コロナ以後は規模を縮小し30人程度で催事を行った。現在は催事をせず咲いている期間にのぼりを立てて自由に見学してもらおう形としており来場者数の把握も行っていない状況となっている。

(2) 令和6年度施設利用報告について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 中学校の利用が前年より減少している理由はなぜか。

事務局 中学校は利用が復活する学校もあるが、止める学校もある。大規模校ほど利用しなくなってきている。また、令和5年度はコロナが明けた年で、ある中学校は1年生に加え前年にコロナで活動が制限されていた2年生も宿泊してもらったこともあり令和6年度より人数が多くなった。

(3) 令和7年度事業計画について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 今年度の森の昆虫見つけ隊は、暑さ対策でこれまでのサービスセンター2階ではなく本館研修室を会場にして開催した。若干狭かったが会場内の配置を工夫したりしてうまく実施することができた。虫好きな子供達が集まり熱心に頑張ってくれた。

今はインターネット等でいくらでも情報は得られるが、実体験が少ない。ここに来て、実際に虫を捕り触って標本にすると子供達の目の輝きが変わってくる。子供達の熱気に講師もつられ予定時間を越えて標本づくりを続けている状態が毎年のようにある。職員の努力や気遣いもありがたく感じている。

委員 森の昆虫見つけ隊の参加状況はどうだったのか。

事務局 初日が6家族、二日目が10家族、三日目が16家族の申込みだったが直前のキャンセルがあり14家族となった。昨年度以上に参加いただけた。

委員 山形大学の社会教育実習は何人くらい参加されるのか。

事務局 昨年度は24名参加した。例年10~20名程度だったが今年度は37名である。

この実習の後、応用実習として自然の家の1泊の主催事業に来てもらうこととなるが、その際は学生の評価も行うため人数を分散して受入れる考えである。

委員 来年度は山形大学で教育学部復活が決まっているので、参加する学生がもっと増えてくるのではないかと。

委員 保育園、幼稚園児対象の事業はあるのか。幼児のときから自然に触れることはすごく大事なことと感じており、そのような事業があると良いのではないか。

(4) 令和7年度施設利用予定について
事務局より、資料を用いて報告。
質問、意見等なし。

(5) その他
事務局より以下の内容を口頭で報告。

熱中症対策について

- ・熱中症指数計で計測し、必要に応じ利用団体に提供。
- ・今年度は、団体活動中に熱中症指数31℃以上で気温35℃以上となった日はない。
- ・気温上昇が想定された際に、登山を省略しウォークラリーとする変更や熱中症指数を計測しつつカヌーの活動時間を短くした。
- ・プラネタリウム室に冷房を入れ、クールダウンでの利用を行った。
- ・今年度、熱中症の症状で4名が保健室を利用したが、軽症で休養により回復している。

熊対策について

- ・1日3回（8時30分、11時、15時頃）、熊除け花火の打ち上げや爆竹を鳴らしている。
- ・今年度は敷地内での熊の目撃情報は無く、キャンプ場での活動も予定通り実施できている。

10 閉会

閉会后、施設見学（プラネタリウム）